

下記様式の変更は不可とします。

この領域は事務局使用
縦 5 行×横 12 文字
(10P)

多職種連携による QOL の向上

口腔ケアから始まる摂食訓練

岐阜県・関ヶ原町

特別養護老人ホーム ^{ゆう}優・^{ゆう}悠・^{ゆう}邑

歯科衛生士 廣瀬 絵里佳

HP <http://www.sugiwakai.jp> yu-yu-yu@viola.ocn.co.jp FAX 0584-43-3156

今回の発表の施設 またはサービスの 概要

社会福祉法人杉和会は、平成 9 年に法人認可、平成 10 年から特別養護老人ホーム優・悠・邑(入居 50 床・ショートステイ 20 床)、デイサービスセンターえりかの里(当時はB型)にて事業開始。デイサービスは年中無休営業で、現在定員 30 名。平成 16 年全室個室のユニット型の増床 (4 ユニット 40 名) 平成 20 年職員宿舍、事業内保育新設。

<取り組んだ課題>

多職種連携が重要であることの根拠として、胃瘻や顔面神経障害などそれぞれの状態に応じた個別ケアを多職種で実施した結果を報告する。

<具体的な取り組み>

症例 1 Y.M 様

急性胃腸炎と誤嚥性肺炎で入院し、食思不振もあり胃瘻造設。嚥下機能は維持できており水分摂取も可能。

施設入居時、朝、夕は経管栄養を実施。昼食は主食を重湯、副食をソフト、汁物は具なしで提供。副食を食べられる範囲で経口摂取して頂き、主食と汁物を胃瘻より注入し対応した。当初は経口摂取が進まない事や介護拒否で口腔ケアも抵抗が見られたが、徐々に経口摂取量も増え、主食も粥ゼリーにし全量摂取が安定し、現在口腔内の衛生状態の維持により誤嚥性肺炎のリスクも最小限にし、昼、夕の 2 食とおやつを経口摂取を実施している。

症例 2 Y.A 様

入居当初は経口摂取をされていたが、口腔内に詰め込まれる事も多かった。肺炎での入院中に誤嚥をした事で胃瘻造設される。

口腔内の状態は残存歯のプラーク付着多く口臭も強い。唾液分泌量も多く口唇閉鎖不全もあり流涎みられ常に首からタオルをかけていた。

退院時より家族面会時にゼリーを持参して頂きお楽しみ嚥下をしていた。全身と口腔内の状態が安定しており、嚥下機能の簡易スクリーニングを実施したところ、少量であれば安全に嚥下可能であると評価した。摂食意欲が旺盛であるため、多職種で検討し現在は毎日 3 時のおやつをミキサー状やゼリー状で提供している。

症例 3 G.S 様

入居後、右顔面下垂がみられ食べこぼしが多くあった。意識レベルは良好で上肢、下肢共に以前と運動機能変わりなし。食後は右口腔前庭に食物残渣多くみられる。食べこぼしは自覚され箸で口腔内へ再度取り込む動作をされる。

口腔マッサージや口唇閉鎖訓練を実施。開始 1 か月後に右下口唇の挙上が若干みられる。右側の頬は緊張が強く筋肉の硬縮がみられたが徐々に緩和している。

<活動の成果と評価>

これらの症例は多職種が協働し、各職種の特性を活かした食支援をしていく事で徐々に入居者様の QOL の向上がみられた。中には食べることが楽しみの入居者様に 1 日の目標ができ、満足感により胃瘻チューブの自拔もみられなくなった症例もある。入居者様と職員の双方に目標ができることで、互いに共感し合いコミュニケーションも多くなる事で精神面の安定にも繋がった。

<今後の課題>

食支援における課題は多々ある為、今後も入居者様の思いを大切に「今日一日、楽しかった」と感じて頂けるように多職種連携によるケアを充実させていきたい。

下記様式の変更は不可とします。

この領域は事務局使用
縦 5 行×横 12 文字
(10P)

毎日を楽しく過ごして頂くために

岐阜県・関ヶ原町

特別養護老人ホーム ゆう ゆう ゆう
優・悠・邑

介護職員 堀江 忠史

HP <http://www.sugiwakai.jp> yu-yu-yu@viola.ocn.co.jp FAX 0584-43-3156

今回の発表の施設 またはサービスの 概要

社会福祉法人杉和会は、平成 9 年に法人認可、平成 10 年から特別養護老人ホーム優・悠・邑(入居 50 床・ショートステイ 20 床)、デイサービスセンターえりかの里(当時はB型)にて事業開始。デイサービスは年中無休営業で、現在定員 30 名。平成 16 年全室個室のユニット型の増床(4 ユニット 40 名)平成 20 年職員宿舎、事業内保育新設。

<取り組んだ課題>

ご利用者様のニーズは日々変わっていくものである。「もっと運動がしたい」「楽しいことがしたい」「動きたくない、寝たい」など人によって様々であり、特に本人の生きる意欲が低下している場合、マイナスの言動が多くみられることが多い。その中でご利用者様の日常生活機能の向上と自己決定を促す取り組みを行い、ご利用者様に「楽しい」と感じて頂ける環境作りを行っていく。

<具体的な取り組み>

○レクリエーションの充実

運動系レク種類と文科系レク種類の二つを行っていたが、運動系レク二種類と文科系レク種類の三つを行うようにした。どのレクに参加するかは朝の時点でご利用者様に選んで頂くようにした。

○入浴剤の充実

現在では 11 種類の入浴剤を使用して日替わりで楽しめる入浴にした。

○日中の過ごし方について

入浴やレクリエーション以外で楽しめる環境を整える。

○現状のご利用者様のニーズを知る為に一ヶ月かけてご利用者様 1 人ひとりに対してのアンケート調査を行った。内容としては以下の通りである。

- ① 食事について
- ② 入浴について
- ③ 午前中の過ごし方について
- ④ 午後の過ごし方について
- ⑤ レクリエーションについて
- ⑥ 16 時からの過ごし方について
- ⑦ 職員とのコミュニケーションについて

<活動の成果と評価>

○レクリエーションの幅を 2 つから 3 つに広げたことで、選択肢が増えご利用者様に楽しんで選んでもらえる。運動系のレクを増やしたことにより日常生活機能の維持向上につながり、より元気でいて頂ける。

○入浴はデイサービスご利用者の一つの楽しみであるため、入浴剤を増やすことによりデイサービスに来る楽しみが増える。「今日は何の風呂や?」と聞かれることが多くなった。

○日中の取り組みとして、暖かい日は外に出て活動して頂ける環境を作り、花の水やりや畑の収穫等積極的に取り組んで頂く。

<今後の課題>

アンケート結果をもとにご利用者様から様々な意見を頂きました。ほとんどが満足している方ばかりだが、中には不満を持っている方も何名か見えました。例えば毎日日替わりで入浴剤を変えているが、中には「何も入っていないお湯に浸かりたい」といった意見があり、その対応として週に一度は入浴剤のない日を作るなどして少数派の方々の意見を大事にして取り組んでいく。

下記様式の変更は不可とします。

この領域は事務局使用
縦 5 行×横 12 文字
(10P)

介護福祉士の資格取得に向けて

岐阜県・関ヶ原町

特別養護老人ホーム ゆう ゆう ゆう
優・悠・邑

介護職員 川部 智哉

HP <http://www.sugiwakai.jp> yu-yu-yu@viola.ocn.co.jp FAX 0584-43-3156

今回の発表の施設 またはサービスの 概要

社会福祉法人杉和会は、平成 9 年に法人認可、平成 10 年から特別養護老人ホーム優・悠・邑(入居 50 床・ショートステイ 20 床)、デイサービスセンターえりかの里(当時はB型)にて事業開始。デイサービスは年中無休営業で、現在定員 30 名。平成 16 年全室個室のユニット型の増床 (4 ユニット 40 名) 平成 20 年職員宿舍、事業内保育新設。

<取り組んだ課題>

1. 介護関係の資格を持たず仕事を始めて 2 年が過ぎ 3 年目になりました。介護の事をもっと勉強する為に資格を取る必要があると上司に勧められ、介護福祉士の資格取得を目指しています。
2. 利用者様とのコミュニケーションや日々のデイサービスで行っているレクリエーションの向上。

<具体的な取り組み>

介護福祉士を受験するために 3 年以上の実務経験と実務者研修修了が必要であった為、実務者研修の参加することに決めました。7 月から大垣で行われる実務者研修に参加する予定です。

私はデイサービスで行っているレクリエーションの担当を多く行っており、他の職員より多く行っている為、新しいゲームやどのようにしたら楽しんでもらえるかを考えました。

<活動の成果と評価>

実務者研修についてですが 7 月からの為まだ参加できていないので参加出来次第、時間を使って勉強していきたいです。

日々のレクリエーションについては、他の職員と協力・相談していくつかのゲームを考え、利用者様に行って頂きました。「初めてやでできるか分からん」と発言される方もみえましたが実際に行ってみると「やってみたら面白かった」「またやりたい」と言ってもらえることができました。

<今後の課題>

実務者研修に参加するにあたって色々なことを学ぶだけではなく、日々の現場で違っている点や知らなかった事などを見つけ仕事でも生かしていきたい。休みの時間や暇な時間に少しでも勉強していく。分からない事があれば上司や他の職員に質問したりする。

レクリエーションでは利用者様だけではなく、職員も一緒に楽しくでき盛り上がるゲームを考えていく。

下記様式の変更は不可とします。

この領域は事務局使用
縦 5 行×横 12 文字
(10P)

コミュニケーションとコーチング

岐阜県・関ヶ原町

特別養護老人ホーム ゆう ゆう ゆう
優・悠・邑

介護職員 本館一階 伊藤 仁志

HP <http://www.sugiwakai.jp> yu-yu-yu@viola.ocn.co.jp FAX 0584-43-3156

今回の発表の施設 またはサービスの 概要

社会福祉法人杉和会は、平成 9 年に法人認可、平成 10 年から特別養護老人ホーム優・悠・邑(入居 50 床・ショートステイ 20 床)、デイサービスセンターえりかの里(当時は B 型)にて事業開始。デイサービスは年中無休営業で、現在定員 30 名。平成 16 年全室個室のユニット型の増床(4 ユニット 40 名)平成 20 年職員宿舎、事業内保育新設。

<取り組んだ課題>

コミュニケーションとコーチング
「下の職員からの信頼が得られていない」との指摘を受けた。
コミュニケーションとコーチングをテーマに取り組む事にする。

<具体的な取り組み>

自己分析して自分を振り返る

- ① 命を預かる仕事として、緊張感を持って仕事にあたる
- ② 職員と話す時間があれば、利用者と話す
- ③ 業務時間内に終わられるよう、効率よく業務を回す

客観的に分析してみる

- ① 態度がピリピリしていないか、それを他人に感じ取られていないか— 一日一回笑顔で話しかける
- ② 職員と話すのも仕事— 一日一回問題点を投げかけ、導き出させる。
- ③ 効率ばかりに目が行き、大事な所を見落としていないか— 一日一回以上褒める

<活動の成果と評価>

- ・職場、フロアの雰囲気が明るくなり、活気が出る。
- ・当然、利用者へも影響し、笑顔が増える。
- ・職員個々のやる気が出る。モチベーションが違ふ。
- ・下の職員が成長すると、自分も楽になる。

以上、少しずつではあるが。

<今後の課題>

利用者本位は、他の職員へも目を向ける事で、利用者へも大きく影響する。一人ではできない、助け合わなければできない仕事である。

下記様式の変更は不可とします。

この領域は事務局使用
縦 5 行×横 12 文字
(10P)

地域貢献への情報発信

ポップコーンの演奏会を通じて

岐阜県・関ヶ原町

特別養護老人ホーム ゆう ゆう ゆう
優・悠・邑

介護職員

村瀬 智美

HP <http://www.sugiwakai.jp> yu-yu-yu@viola.ocn.co.jp FAX 0584-43-3156

今回の発表の施設 またはサービスの 概要

社会福祉法人杉和会は、平成 9 年に法人認可、平成 10 年から特別養護老人ホーム優・悠・邑(入居 50 床・ショートステイ 20 床)、デイサービスセンターえりかの里(当時は B 型)にて事業開始。デイサービスは年中無休営業で、現在定員 30 名。平成 16 年全室個室のユニット型の増床 (4 ユニット 40 名) 平成 20 年職員宿舎、事業内保育新設。

<取り組んだ課題>

地域貢献を行うために、地元の地域へポップコーンの演奏会に行き、優・悠・邑という施設を知って頂く。

- ・地域の方々に、特別養護老人ホームは、ごく身近なところであると知って頂く。
- ・ポップコーンの演奏する職員が少なくなり、新しく職員が入って頂く。
- ・講師を招いて練習

<具体的な取り組み>

- ・月 2 回 講師を招いて 17 時～18 時半までの練習
- ・曲のレパートリーを増やし季節に合った曲や懐かしい曲などを練習
- ・ポップコーンの演奏する職員が少なくなり、声掛けを行い、新しい職員が入って頂きました。その為、前からメンバーとして入っていた職員は、他のパートの練習をする。
- ・地域貢献として地元の地域での演奏会に参加させていただきました。

<活動の成果と評価>

- ・毎月 2 回の講師を招いて練習をしていますが、責任者が事前に確認をして 4 人から 5 人集まって練習ができるようになりました。
- ・曲のレパートリーを増やし、童謡だけではなく、歌謡曲や季節に合った曲を増やした事で演奏会に参加でき、地域の方と一緒に歌うことができました。
- ・新しい職員が入ってきたことで、前からメンバーとして入っていた職員は、他のパートの練習をして両パートひけるようになりました。
- ・地元地域での演奏会に参加していますが、なかなか地域での演奏会に参加する機会が少なくなってきた。

<今後の課題>

- ・地元の地域での演奏会に参加させて頂くために、各地域にお声掛けをしてポップコーンと言う楽器に触れあって頂く。
- ・地域の方がまた施設内見学をして頂くことで特別養護老人ホームはごく身近なところであると知ってもらえる。
- ・施設の職員だけではなく、地域の方をお誘いして入って頂き、地域の方と一緒に活動を行っていくことで、町の活動にも参加していける。

下記様式の変更は不可とします。

この領域は事務局使用
縦 5 行×横 12 文字
(10P)

楽しく安全に食事をして頂くために

岐阜県・関ヶ原町

特別養護老人ホーム ゆう ゆう ゆう
優・悠・邑

介護職員 谷田 貴都

HP <http://www.sugiwakai.jp> yu-yu-yu@viola.ocn.co.jp FAX 0584-43-3156

今回の発表の施設 またはサービスの 概要

社会福祉法人杉和会は、平成 9 年に法人認可、平成 10 年から特別養護老人ホーム優・悠・邑(入居 50 床・ショートステイ 20 床)、デイサービスセンターえりかの里(当時はB型)にて事業開始。デイサービスは年中無休営業で、現在定員 30 名。平成 16 年全室個室のユニット型の増床 (4 ユニット 40 名) 平成 20 年職員宿舍、事業内保育新設。

<取り組んだ課題>

利用者様の食事姿勢について理解し、誤嚥安全に食事を摂取して頂く為に、利用者様の食事状況の把握を行い姿勢改善の為に実践を行う。
毎月のバイキングでより利用者様に楽しんで頂けるに出来る事はないか考え実践する。

<具体的な取り組み>

- ・利用者様の食事姿勢の把握・クッション等による姿勢の安定
- ・バイキングにて職員による催しを企画し実践を行う。

<活動の成果と評価>

- ・バイキングの催しは利用者の方々に喜んでもらえる結果になった
- ・食事姿勢については、理解することが出来たが、職員全員に理解できるよう情報を共有するまでは行う事が出来なかった。

<今後の課題>

- ・自分だけでなく職員一人一人が食事の姿勢を理解し気付いてもらえるようにしていかなければならない
- ・催しが毎月同じものにならないようにしていかなければならない。
- ・デイサービスだけでなく本館や新館でも実践できるようにしていく

この領域は事務局使用 縦 5 行×横 12 文字 (10P)	日中の“汚染”を減らす為に
排泄 	昨年度との比較からの考察
岐阜県・関ヶ原町	特別養護老人ホーム <small>ゆう ゆう ゆう</small> 優・悠・邑
介護職員 小林 憲史	
HP http://www.sugiwakai.jp yu-yu-yu@viola.ocn.co.jp FAX 0584-43-3156	

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	社会福祉法人杉和会は、平成 9 年に法人認可、平成 10 年から特別養護老人ホーム優・悠・邑(入居 50 床・ショートステイ 20 床)、デイサービスセンターえりかの里(当時は B 型)にて事業開始。デイサービスは年中無休営業で、現在定員 30 名。平成 16 年全室個室のユニット型の増床 (4 ユニット 40 名) 平成 20 年職員宿舎、事業内保育新設。		
<p style="text-align: center;"><取り組んだ課題></p> <p>今年度は利用者様の移動や体調の変化から排泄の頻度 (誘導回数) に変化が見られた。</p> <p>そこで、日頃の活動及び排泄表から各時間の排泄の結果をまとめ、以下の点を昨年度のそれと比較し、そこから“汚染”の原因を読み解いていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日中の排泄のリズムの変化 ● 尿測によるオムツのランクの変化 ● “汚染”が多い時間帯とその要因 <p style="text-align: center;"><具体的な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日中の排泄のリズムの変化 <p>中にはトイレの訴えがあり、個別に対応する利用者様もいるが、昨年度同様、トイレ誘導は定時の方が多し。また、日中に臥床時間を設けている入居者様があり、10 時と 15 時の 2 回誘導を減らし、臥床時間にあてている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 尿測によるオムツのランクの変化 <p>今年の 1 月に入居・ロングショート尿測を大々的にいき、新規の利用者様に関しては利用日に即開始できるようにフロアの職員に申し送りをした。また、連絡ノートや排泄表に実施の旨を書く事で、職員が意識を持って、誰に言われずとも、尿測を行う習慣がついた。</p> <p style="text-align: center;"><活動の成果と評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 独歩や立位の取れる方は声かけを積極的に行い、パット内に汚染する前に排泄を済ませることが出来るようになった。しかし、経管栄養の方を始め、二人介助でトイレへの移乗を行う方がどうしても定時の誘導になってしまう。 <p>また、毎食後の計 3 回誘導しているが、その内でも誘導の順番が後の方になるので、個別対応または、衣類を汚してしまう前に優先的に誘導する工夫が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度と大きく変更が見られたのは、オムツのランクで、特に夜間のハイパー 2000 の使用個数がほぼゼロになり、コストの削減になった。 <p>いままで大きいパットを当てていたのが、より正確に測ることでベストのランクに変更する事が出来た。これは尿測の実施をフロアで周知し、協力して行えたからである。</p> <p>また、ランクをより小さいものへ変更したが、それでも夜間の汚染が減っていることから、職員個人の排泄介助におけるオムツ当ての的確さが大きく作用しているとも考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 排泄表を基に汚染率 (=汚染回数/誘導回数) を算出したところ、 <p>I S 様 : .119 (1 日 7 回誘導) → .235 (5 回誘導) T H 様 : .113 (7 回誘導) → .129 (5 回誘導) Y A 様 : .173 (5 回) → .139 (5 回) Y S 様 : .119 (8 回) → .206 (10 回・個別対応)</p> <p>特に細菌汚染が多いなど感じた方を上げたが、1 日平均 1 回だった汚染が 2 回に増えている。汚染の原因として、トイレにて排尿が見られず次回に持ち越してしまったり、誘導時間が遅れてしまう場合が多い。オムツの当て方だけでなく前述した個別の対応で改善できるのであれば、色々考えて積極的にフロアに提案していきたい。</p> <p style="text-align: center;"><今後の課題></p> <p>排泄のペースはそれぞれであり、排尿習慣の再学習であったり、尿意・便意の自覚を得ることが理想である。パターンを掴む事は安易ではないが、排泄介助が職員の業務ではなく、利用者様個人の生活のリズムという意識を高めていければ、誘導時間を個別に対応したり、排尿が見られないなら水分摂取で調節するなどの工夫がフロアの中でもみられる様になると思うので自分や上席者を中心に検討して、他の職員にも考えを伝えていきたい。</p>		

この領域は事務局使用
縦 5 行×横 12 文字
(10P)

利用者様の褥瘡改善、予防について

介護職員としてできること

岐阜県・関ヶ原町

特別養護老人ホーム 優・悠・邑

介護職員 早瀬・岩尾

HP <http://www.sugiwakai.jp> yu-yu-yu@viola.ocn.co.jp FAX 0584-43-3156

今回の発表の施設 またはサービスの 概要

社会福祉法人杉和会は、平成 9 年に法人認可、平成 10 年から特別養護老人ホーム優・悠・邑(入居 50 床・ショートステイ 20 床)、デイサービスセンターえりかの里(当時はB型)にて事業開始。デイサービスは年中無休営業で、現在定員 30 名。平成 16 年全室個室のユニット型の増床 (4 ユニット 40 名) 平成 20 年職員宿舍、事業内保育新設。

<取り組んだ課題>

現状フロア内で褥瘡ができてしまう利用者様が時々見られています。今回はその利用者様方の褥瘡の完治、予防に取り組みました。

<具体的な取り組み>

- ・A 様(介護要度 5 女性 C2 II b 84 歳 入浴以外寝て過ごされる)褥瘡:左膝関節間(1 cm程) 右五趾の付け根(0.5×0.5cm)
- ・B 様(介護要度 1、女性、79 歳 B1 II a 食事、入浴時以外は寝て過ごされる)褥瘡:左手第一指(1×1 cm)
- ・C 様(介護要度 3、女性、86 歳 B1 III a 普段デイルームのソファに座って過ごされる)褥瘡:円背部(1×1 cm)
- ・D 様(介護要度 4、女性、91 歳 B2 III a 食事、入浴以外は寝て過ごされる)褥瘡:右足踝(2×2cm)

<活動の成果と評価>

A 様

膝関節:洗浄、ワセリン塗ってパッドで保護、膝関節にタオルをはさんでもらい対応。

右足五趾付け根:洗浄、ガーゼで保護 傷に当たらないようクッションを使用し対応。(完治 3 週間程)

B 様

洗浄 棒状にしたサルバタオルを手ににぎってもらう 自分で外されてしまうためストッキングを手にかぶらせてもらい対応。(完治 2 ヶ月程)

C 様

洗浄、ワセリン塗ってパッドで保護 座る際背中にクッションをかませてもらい(完治 2 週間程)

D 様

洗浄、ワセリン塗ってパッドで保護 クッション使用し傷が当たらないように対応。(完治 1 週間程)

<今後の課題>

現在、褥瘡ができていない利用者様は見られていません。しかし、気温が暑くなり肌が荒れやすい方、寒くなり乾燥されやすい方などはそこからすぐに褥瘡につながることもある。その利用者様方の褥瘡を予防していくために栄養状態の見なおし、眠っている時の体位を職員間で把握しておける体制づくりが今後の課題となる。

この領域は事務局使用
縦 5 行×横 12 文字
(10P)

N・H 様について

臀部の掻き傷の経過について

岐阜県・関ヶ原町

特別養護老人ホーム ^{ゆう}優・^{ゆう}悠・^{ゆう}邑

介護職員

一色 茉由

HP <http://www.sugiwakai.jp> yu-yu-yu@viola.ocn.co.jp FAX 0584-43-3156

今回の発表の施設 またはサービスの 概要

社会福祉法人杉和会は、平成 9 年に法人認可、平成 10 年から特別養護老人ホーム優・悠・邑(入居 50 床・ショートステイ 20 床)、デイサービスセンターえりかの里(当時は B 型)にて事業開始。デイサービスは年中無休営業で、現在定員 30 名。平成 16 年全室個室のユニット型の増床(4 ユニット 40 名)平成 20 年職員宿舍、事業内保育新設。

<取り組んだ課題>

・N・H 様は、臀部が痒いのか臥床されておられる間(夜間)もオムツの中に手を入れて臀部を掻いておられた。爪が長かったまたは掻きすぎたのか爪で引っ掻いた後が血まみれになって臀部に広がっていた。オムツの中に手を入れられていたのでずれてしまい、夜間汚染も多くなりそのせいもあり、臀部が荒れるというような影響が出来てしまった。

・臀部の掻き傷を無くし夜間汚染量を減らしグッスリ快眠されるにはどうしたら良いのか。

<具体的な取り組み>

- ①一日のトイレ誘導時にワセリンを臀部に塗る。
- ②パッドを当てる際、尿がしっかり拭きとれるまでサルバで臀部を綺麗に拭き取る。
- ③夜間以前 1:30 に H20 のオムツを当てて起床前の 4:00 にはオムツを朝食後のトイレ誘導まで持つので交換しなかった。それをランクを下げて 18:30 と 0:00 と 4:30 に H16 を当てて毎度交換する。

<活動の成果と評価>

①、②と同様に、トイレ誘導時にワセリンを臀部全体に塗った結果、痒みも減少し掻き傷が以前より小さくなった。

本人様も「痒くないよ」とおっしゃる。

③夜間 3 回に分けて H16 でオムツを交換した結果、オムツのギャザーで痒くて肌荒れしていたのかオムツを直ぐに変える事によって、気持ちよく快眠できるし尿で臀部も痒くならない。気持ちいいのかスッキリするのかオムツを触られる事なく、汚染される事なく眠っておられる。

<今後の課題>

・まだ完治はしていないので職員同士で声を掛けあって、トイレ誘導時やオムツ交換時にワセリンを塗布するのを継続していく。

・複圧を掛けると尿が出やすい人なのでしっかりと臀部を拭けるようにトイレ内で尿を全部出し切っていただく。拭き取る際、しっかり傷が広がっているか、収縮しているか観察する。

・オムツ交換の際(夜間)H16 で三回交換する事を継続する。なるべく掻かれないようにシャツをしっかりズボンの中に入れて上までズボンを上げる。

・日中もズボンの中に手を入れて掻かれておられる時があるのでその際は声掛けをして対応する。

下記様式の変更は不可とします。

この領域は事務局使用
縦5行×横12文字
(10P)

余暇活動の充実を図る

音楽レクを通して

岐阜県・関ヶ原町

特別養護老人ホーム ^{ゆう}優・^{ゆう}悠・^{ゆう}邑

介護職員 芝崎真行

介護職員 大口幸太

介護職員 小林彩乃

HP <http://www.sugiwakai.jp> yu-yu-yu@viola.ocn.co.jp FAX 0584-43-3156

今回の発表の施設 またはサービスの 概要

社会福祉法人杉和会は、平成9年に法人認可、平成10年から特別養護老人ホーム優・悠・邑(入居50床・ショートステイ20床)、デイサービスセンターえりかの里(当時はB型)にて事業開始。デイサービスは年中無休営業で、現在定員30名。平成16年全室個室のユニット型の増床(4ユニット40名)平成20年職員宿舎、事業内保育新設。

<取り組んだ課題>

ユニット内での余暇活動に不十分さを感じており、入居者様からも「暇だから何かやることはないか」という声が上がっていた。毎日を施設で過ごされる入居者様にとって、暇という事はつらいことで、それを解消する必要があった。

<具体的な取り組み>

- ・4ユニット(40名)すべてを対象に、ワンフロアに集まって月2回の音楽レクリエーションを実施
- ・毎月、他の行事のない日に行う
- ・行事カレンダーで告知し、声掛けも行い当日までの話題にする
- ・開始時間前から音楽をかけて雰囲気づくりをする

○レクリエーションの内容

- ・昔の歌(童謡や歌謡曲)を数曲用意し、キーボードで職員が演奏、またはCDをかけて、B紙に書いた歌詞を見て歌う
- ・歌うだけでなく、歌に合わせて手足を動かす軽い運動もする
- ・手作りの楽器やボール、風船なども取り入れる

<活動の成果と評価>

平成28年2月から開始し、欠かすことなく継続している。当時、人事異動があり新しい何かをしようと呼びかけ、一人のパート職員から音楽でレクリエーションをしてみたいとの提案があった。

- ・入居者様の刺激になった
- ・昔の歌を歌うことで、回想法の効果が得られた
- ・入居者様から「そういうの私は苦手」「耳が聴こえないから」など遠慮される声も最初はあったが、参加しているときはとても楽しそうにされていた。
- ・まばらだった参加者もほとんど全員と言っているほどの参加となり、参加後は「楽しかった。ありがとう」の声がたくさん聞かれ、毎月「今月はいつ音楽あるの?」と楽しみにしてくださるようになった。
- ・職員も一緒に歌ったりからだを動かしたり、手遊びのようなことでふれあう時間になった。
- ・パート職員も活躍する場をつくることができた

<今後の課題>

- ・提案した職員が中心となって行っているが、他の職員ももっと介入していく必要がある。
- ・重度の認知症の方や難聴の方も同じように楽しめるような場にしていく。
- ・月2回の音楽レクだが、他の日にも違うレクリエーションを行い楽しい日々を過ごしていただく。

この領域は事務局使用 縦 5 行×横 12 文字 (10P)	<h2 style="margin: 0;">自立支援にむけて</h2>
岐阜県・関ヶ原町	特別養護老人ホーム <small>ゆう ゆう ゆう</small> 優・悠・邑
介護職員 西川裕子	
HP http://www.sugiwakai.jp yu-yu-yu@viola.ocn.co.jp FAX 0584-43-3156	

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	社会福祉法人杉和会は、平成 9 年に法人認可、平成 10 年から特別養護老人ホーム優・悠・邑(入居 50 床・ショートステイ 20 床)、デイサービスセンターえりかの里(当時は B 型)にて事業開始。デイサービスは年中無休営業で、現在定員 30 名。平成 16 年全室個室のユニット型の増床 (4 ユニット 40 名) 平成 20 年職員宿舎、事業内保育新設。	
<p style="text-align: center;"><取り組んだ課題></p> <p>・病気になられ、病気の事・家での生活等に不安を抱えられているため精神的な不安を取りのぞき、施設での生活を安心して送っていただく。また、同じ施設で入居者されている奥様との面会を楽しんでいただく。</p> <p style="text-align: center;"><具体的な取り組み></p> <p>I・E(歳) 要介護度 2 認知症度：Ⅱa 自立度：j 1 ○生活に対しての不安をとりのぞく。右下肢の痺れ・腰部周囲の重だるい感じ。 →湿布塗布し、歩行練習行う。 →耳が聞こえないため、職員・入居者様と会話されるときは筆談する。コミュニケーションを多く取ることで不安をなくしていく。 ○本人が昔、していた、さつきのお世話・絵画を調子がいい日はおこなっていく。 →家からさつきの鉢をもってき、水やり、剪定などを職員と一緒にこなっていく中で、さつきの話しをしたり、不安を話したりし信頼関係を築いていけるようにする。 ○写真を撮ることが好きなので、フロアや施設での行事をもとに広報誌を作成してもらう。 →広報誌を作成された時は、職員が字などを確認する。また、入居者様に配ったり、廊下に掲示したりする事でたくさんの方に読んでもらえるようにする。 ○1 週間に 1 度は奥様の所にいき面会をしてもらう。</p>	<p style="text-align: center;"><活動の成果と評価></p> <p>・入居当初は、病気（脳梗塞後遺症）にたいする不安が強く、職員にたいして弱音を吐かれたり、奥様にも逢いたくないと面会されなかつたりと、精神的に落ちておられた。職員が話しを聞いたり、家でお世話されていたさつきを持ってきたりしたことで、少しずつ不安がなくなり、施設での生活を満喫されるようになった。また、奥様の面会も 1 週間に 1 度は逢いにいかれるようになられた。</p> <p>・入居から半年くらいたつと、自分から広報誌を作りたいと言われ、広報誌作りにも生き甲斐を感じて作成されている（現在 100 号発行されている）</p> <p style="text-align: center;"><今後の課題></p> <p>・さつきクラブを作り、本人の生き甲斐つくりにつなげていく。 ・居室で絵を描いたりできる環境づくり。 →フロアに、作品にできるような、花をおいたりし絵を描こうと思って頂けるように環境を作っていく。 ・耳が聞こえないため、孤独を感じられないように今後も I 様・職員・入居者様のコミュニケーション作りの継続。 ・I 様のケアを生かして、他入居者様も生き甲斐を持って生活していただけるようなケアをおこなっていく。 →施設に入居されたら、家でやっていたことができなくなるのでは、継続してできるように情報を集め、できることをやっていただけるようにする。職員が残存機能の低下をしないように。</p>	